
レジリエンス・ワークショップ2013

パネルディスカッション資料

JST復興促進センター

寺沢 計二

1. 継続性

■ 平時の備え

社会ニーズ対応の研究開発
ビジネス化可能な課題推進
リスク管理の考慮(審査時)

科学技術
イノベーション
の推進

■ 有時の対応

研究成果を活用する迅速な対応
復興はイノベーションのチャンス

次の有事にも
活かせるように

⇒ 長い目で見た継続的な国の科学技術支援が必要

2. ビッグデータ

- **みちのく震録伝**
東日本大震災の記録
- **科学技術情報のデータベース**
J-GLOBAL、J-STAGEなど
(専門家や関連研究・特許のひもづけ)

平時の防災対策
有時の緊急対応
への活用

⇒ JSTは、国として取り組むべき情報収集・提供方法を常に検討

3. 連携

これまでのJSTの活動・経験を通じ...

- 産学連携の基盤強化

A-STEPなど

- 国際協力

SATREPSなど

- コミュニケーションネットワーク形成支援

「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援プログラム」など

⇒ 国・地域・セクターの枠組みを越えた連携の強化が必要

まとめ

(2012年8月)

- **JST: 戦略プログラムパッケージの策定**
5番目の柱: 社会技術・社会基盤
- **継続的支援**
 - 関連研究の推進
 - 重要情報のアーカイブ
 - ネットワーク基盤形成支援
- **起こさない対策(起こらない想定)**
→ **起こった場合のリスク対策へ**

関係各位
の取組み
↓
国内外に
継続的に発信し、
意識共有・協働へ

⇒ **多様な関係者のベクトルを揃え、風化を防止**